

日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局 ㊟227-0045横浜市青葉区若草台8-28 Fax 045-962-0866

総会ご挨拶

ボストンからのご挨拶

増 渕 興 一

家内と訪日中にこの会に出席することが出来大変嬉しく思います。今回は横須賀の旧海軍工廠を訪問いたしました。丁度今から61年前(昭和19年11月)、学徒勤労員と言って学生が授業を止めて働くようになったことをご存じの方はおられるかと思ひます。

私はその当時東京帝国大学船舶工学科の学生で海軍工廠に派遣にされその溶接研究掛の所属になりました。それがもとで今日まで溶接に関する研究生を送りました。

私がMITで卒業論文の指導をした学生には海軍将校が多数おります。旧海軍工廠は戦後米海軍の艦船修理廠となっており、私が指導した学生の一人が大佐に昇進して現在司令官(廠長)をしておりますので訪問した訳です。

ボストン日本人会の関係では日本語学校が開設されて丁度30年になります。私はその当時日本人会長をしておりましたので校長を兼務いたしました。当時日本電気(株)のボストングループの長をしておられた武田行松氏のご好意で同社の事務所で25名の児童で学校を始めましたが、建物の所有者から「児童の安全を保証出来ない」との苦情が出て立ち退かざるを得なくなりました。そこで一時MITの中で授業をしたのですが、今度は生徒の一人が迷子になるほど苦労をしました。

幸い通商産業省からタフツ大学に留学しておられた原田義昭氏がメドフォード高校で柔道を教えておられた関係で、この学校を使用させて貰うことになり、それが今日まで続いております。生徒数は4年後には約100名、8年後には約200名と言った具合に順調に増加し、現在は680名になっております。なお原田氏は現在衆議院議員として活躍しておられます。

もう一つ別のことについて皆様に申し上げたく思います。最近日本ボストン会で昔の留学生の活動をもっと調べようと言う作業を開始されていると伺いますが、これは非常に重要なことと思ひます。特に

開戦前後に留学され戦時中、或いは戦後重要な貢献をされた方々のご業績がその当時の社会情勢の混乱で分からなくなって仕舞ったケースが多数あると思ひます。

これらの方々のご活躍は日本と米国(特にボストン)とに亘りますので資料の発掘や保存などを出来れば日本側とアメリカ側とが協力して行ったら良いように思ひます。この問題に関して私がどれだけお役に立てられるか分かりませんが、出来るだけ努力して見たいと思ひます。

これに関連して最近私の周りで起きた一つの出来事について述べてみます。阿部信泰元ボストン総領事のご在任中に奥様から「上條という名前の親戚が戦前MITの航空工学科を卒業して三菱重工に勤めていたことがあります」と伺いました。

私はその後名古屋にある三菱重工の航空関係の工場を訪問する機会がありましたが、仕事後の工場見学で戦時中使用されたゼロ式戦闘機などを陳列してある資料館に案内されました。

案内をして下さった人は上條氏のことはご存じありませんでしたが、偶々我々の会話を聞いていた人が「上條さんなら知っていますよ」と言われ、色々のことを伺いました。

戦後日本でYS11と言う飛行機を製造したことは多くの方々がご存じと思ひますが、それを製造するために三菱重工は小牧にある名古屋飛行場に隣接して工場を作ったのですが、その初代工場長が上條氏だったとのこと。またその工場には上條氏が残された資料が今日も残っていることを知りました。

上條勉と言う方が1931から32年にかけてMITの航空工学科に在籍しておられたと言う記録はありますが、その方がYS11の製造に貢献されたことは三菱重工を訪問するまで知りませんでした。

この様な資料を何かの形で組織的に発掘、且つ保存するシステムがあればやがて可成り立派な資料が蓄積されるように思ひます。

(ボストン在住、MIT名誉教授)